

日光国立公園の那須甲子地域は、那須連山の中心に位置し、栃木県と福島県の県境にまたがる。冬は東京よりも寒く、1月の那須高原の平均気温は氷点下、積雪量は平均20~30センチである。夏は比較的涼しく、平均気温は20℃台後半である。

那須連山は、那須五岳（那須岳と総称されることもある）を中心とした火山群で、那須五岳は、茶臼岳（1,915 m）、朝日岳（1,896 m）、三本槍岳（1,917 m）、南月山（1,776 m）および黒尾谷岳（1,589m）を指す。山頂部は約50万年前に始まった火山活動によって形成された。那須連山の中で唯一今も活火山である茶臼岳は、1408年から1410年にかけて激しく噴火し、180人以上の犠牲者を出した。この噴火により硬化した安山岩のドームができ、現在の山頂を形成している。茶臼岳が最後に噴火したのは1881年だったが、山の近くに温泉が多数存在することは、現在も火山活動があることを示している。茶臼岳山頂付近と山麓の噴気孔（火山の噴火口）からは、絶えず硫黄ガスが放出されている。

那須連山の特殊な環境は、非常に多様な生態系を生み出している。まず、地元の野生生物は、何世紀にもわたって火山の状態に適応してきた。次に、那須連山は太平洋と日本海の両方の生態系地帯にまたがっている。そして、茶臼岳の南にある広大な高原地帯は那須高原と呼ばれ、そこには多くの高地種が生息しており、その多くは環境省の絶滅危惧種リストでは、一部が絶滅危惧種（VU）または準絶滅危惧種（NT）と分類されている。

那須高原ビジターセンターでは、那須甲子地域の歴史や自然、アウトドア活動などを紹介している。また、地域にたくさんあるハイキングコースについて、スタッフがアドバイスしてくれる。